

オルビス、震災復興支援活動の一環として石巻でメイクボランティアを実施 震災から3年が経った石巻の今を切り取るフォトコンテスト「フotonマキフェスティバル 2014」に協賛

ポーラ・オルビスグループのオルビス株式会社(本社:東京都品川区、社長:町田恒雄)は、継続的震災復興支援活動「いつもプロジェクト」の一環として、震災から3年が経つ石巻の「今」を、写真を通して残し伝えるフォトコンテスト「フotonマキフェスティバル 2014」(主催:くらしのある家プロジェクト実行委員会、後援:宮城県、石巻市ほか)を協賛します。また同コンテストに関連して、日本を代表する写真家・立木義浩氏がトークショーおよびポートレート撮影を行うワークショップ「立木写真館」において、ポートレート撮影のモデルとなる地域の方約30名(最大)に社員ボランティアがメイクを行います。

「少しでも被災地の方々の笑顔につながれば」という思いから、社員ボランティア一人ひとりが本業である「化粧」を通じて、モデルの方の「美」をより際立たせるお手伝いをします。

フotonマキフェスティバル2014

石巻の「今」を撮り、様々な形で発表することで、石巻の人々が新たな街づくりへの意欲を取り戻し、全国の人々が石巻を知り、訪れるきっかけを作ることを目指したフォトコンテストです。

2013年4月1日から2014年3月31日までに石巻地区(石巻市、東松島市、女川町)にて撮影された写真作品を募集しています(プロ・アマチュア問わず)。

2014年4月下旬に開催される審査会(審査員:立木義浩、橋本照嵩、後援団体、協賛企業代表)によってパーマネント作品^(※)、各審査員賞が選ばれ、石巻フォトミュージアムほかに収蔵、展示されます。

※永久保存作品



ワークショップ「立木写真館」

「フotonマキフェスティバル 2014」では、日本を代表する写真家である立木義浩氏、50年にわたって石巻地域を取り続けてきた橋本照嵩氏、気鋭の女性写真家・田頭真理子氏の3名の著名写真家を迎え、ワークショップ形式のフォトセッションを実施します。

その2回目となる「立木写真館」では、講師の立木義浩氏が、多くの撮影から得た経験をもとにトークショーと、公開写真講評により「“今”を写すということ」へのアドバイスをします。またトークショー終了後、希望者には立木氏によるポートレート撮影現場の見学ができます。

■日時:2014年3月8日(土)10時~12時00分 (参加者集合時間9時30分)

13時00分~ ポートレート撮影見学会

(メイク・協力:オルビスいつもプロジェクト)

■場所:石巻専修大学 5号館3階5301教室 (宮城県石巻市南境新水戸1番地)

■参加費:無料 ■参加定員:300名 ■申込締切:3月3日(月)

■申込方法:ホームページ(PMM-ISHINOMAKI.JP)またはFAX(0225-98-7324)から

■その他質問・問い合わせ:hello@pmm-ishinomaki.jpまで

【本件に関するお問い合わせ先】(株)ポーラ・オルビスホールディングス コーポレートコミュニケーション室

Tel 03-3563-5540 / Fax 03-3563-5543

参考

【オルビス「いつもプロジェクト」について】

かけがえのない『いつも』の日常を被災地の方々が取り戻す、力になりたい

東日本大震災により、今まで当たり前のようにあった「いつも」の暮らしが、どれほど大切であったかに改めて気づかされました。お客さまの「いつも」の質を高めることを目指してきたオルビスにとって、被災地の方々が「いつも」の日常を取り戻すためのお手伝いをするのが、私たちにもできる貢献の1つだと考えました。

そこでオルビスでは、被災地の復興活動を支援する「いつもプロジェクト」を立ち上げ継続して活動を行ってきました。プロジェクトでは、お客さまからお預かりした基金を復興に向けた寄付や支援活動に役立てていきます。また時間とともに変化する被災地情報を発信し続け、被災地の暮らしに寄り添うとともに、プロジェクトに参加いただいたお客さまのさまの思いにもお応えしていきたいと考えています。

